

HOMBRE MIRANDO AL SUDESTE

彼は神か、狂人が？ それとも宇宙からの...



エリセオ・スピエラ監督作品

脚本 ■ エリセオ・スピエラ

撮影 ■ リカルド・テ・アンハリス

音楽 ■ ペドロ・アスナール

美術 ■ アベル・ファツェロ

編集 ■ ルイス・セーサル・ダンジョリロ

製作総指揮 ■ ルハン・フアラウム

出演 ■ ロレンソ・キンテロス

ウゴ・ソト・イネス・ベルネゴ

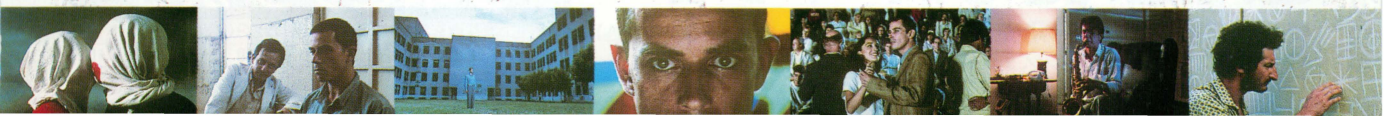
1986年 アルゼンチン カラー スタンダード 1時間47分 配給 - 株式会社 シネセゾン

1986年 トロント国際映画祭 国際批評家賞

1986年 サンセバスチアン国際映画祭 シガ賞 オシック賞

1986年 国際新ラテン・アメリカ映画祭 キューバ作家芸術家協会賞

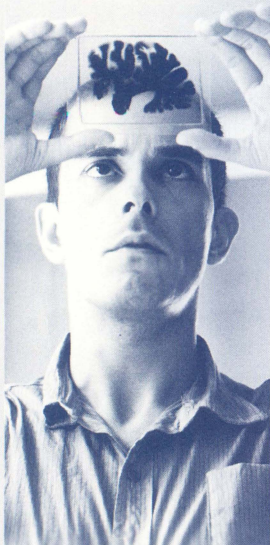
南東からきた男



南東からきた男

解説

33番目の患者として病院に現われた男。この“33”という数字を背負った男は、何者を意味するのか。はたして、33歳で昇天したイエス・キリストの再来なのか。よく天才は33歳で死ぬといわれるが、そうすると彼は突然



変異の超能力を持つ天才なのか。

自ら“地球に落ちてきたエイリアンだ”と主張する男の地球での最大の調査目標は、人間の“感動する心”である。しかし、医師も患者たちも、規則にしばられながら、日常生活を淡々と無感動に送っていた。33番目の患者は実体が謎のまま、ある時は神のごとく他の患者たちの生気をあふれさせ、治療する側の医師の意識さえ、覚醒させてゆく。

スビエラ監督の『The Conquest of Paradise』(楽園の征服) (1981)

に続く期待の長編第2作目のこの映画は、自ら原案を練り上げ、長らく映画化を画策していたように、理性と信仰、科学と宗教など刺激的な題材を多くはらんでいる。「テオレマ」(1968)、「カッコーの巣の上で」(1975)、「地球に落ちて来た男」(1976)、「E.T.」(1982)、「コクーン」(1985)等、ある日突然の陳入者が、平穏な日常の皮膜を1枚、1枚はがして波紋を起し、活性化し、また対立を鮮明にするというのは傑作映画の1つのパターンであるが、このブエノスアイレスからの新作映画も従来のパターンに乗りながら魅力的な閃光を放っている。

この作品の山場となる『第九』のシーンでは、目の前ですばらしいオーケストラの演奏を耳にしている人々と、演奏の聞こえるはずのない病院の患者たちの心に感動を爆発させることに33番目の患者は成功するが、この男の運命は、“人間のあきらめの心”によって意外な方向へ導かれてしまう。忘れてならないのは、この男のたどる運命は、現代の人々への危険なシグナルであるということではないだろうか。



キャスト ■ デニス医師/ロレンソ・キンテロス ランテース/ウゴ・ソト ベアトリス/イネース・ベルネゴ



ストーリー

ブエノスアイレスの片田舎に精神病院がたっていた。そこには最近離婚した精神科医のデニス、官僚主義的な院長の下で医療方法の対立に苦しんでいた。

ある日、これまで32人であったはずのデニスの患者が33人になっていた。33番目の患者は院内の教会でオルガンをひいていた。その音色にデニスの患者たちは感動でくぎづけにされていた。誰も知らぬ演奏者は、自らランテースと名のり、デニス医師に自分は宇宙船で地球にやってきたのだと宣言した。はじめデニス医師はランテースの言動があまりに筋が通っているため、彼がただ気遣いのふりをして、もしくは異星人のふりをし

ているのだと思った。しかし、調べてみても彼の病院外でのデータは何一つ知ることができない。そして、精神分析テストの結果は全て正常。知能指数は異常に高く彼の身体は何の異常もなく健全な人間とまったく違いがなかった。ただひとつ、「他の惑星からきた」という以外は……。

時がたつにつれ、患者たちはランテースを慕いはじめる。彼はいったい何者だ？ 彼が主張しているように、自分自身には感情はないが人間がどのように感情を経験するのかを調べに来た理性的で良心的なエイリアンなのか、それとも、イエス・キリストの再来？ ランテースは毎日、病院の荒れはてた庭に立ち南東の方角を見つめていた。その奇妙な行動は、惑星からの情報を受信しているためだという。デニス医師は、このような行動をとる彼に前よりいっそう強い興味を抱く。そんな時、ランテースにベアトリスという女性が訪ねてきた。彼が“聖女”と呼ぶ謎の女性だ。彼女は唯一、彼に関しての重要なデータを持っているかもしれない人物であるとわかり、デニス医師は、彼女に近づいてゆく。それは彼女自身に心魅かれていたからでもあった。そして……。

9月上旬よりロードショー

特別鑑賞券1,200円発売中(当日一般1,500円・学生1,300円の処)

都内各プレイガイド、チケット・セゾン、チケットぴあ、セゾン系各劇場他でお求めください。グループ鑑賞のお申し込みは株メイジャー ☎03(541)2508まで。

シネセゾン 渋谷

渋谷道玄坂サ・プライム6階 ☎03(770)1721

連日 12:00 2:20 4:40 7:00 土のみ夜9:10

●自由席定員制・入替制